

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772401291		
法人名	医療法人 美盛会		
事業所名	グループホーム くすのき		
所在地	大阪府枚方市養父東町18番30号		
自己評価作成日	令和2年5月11日	評価結果市町村受理日	令和2年7月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 o.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&Jigyosy

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和2年6月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ほとんどの職員が同じ地域に住んでおり、利用者と身近な地域の話で盛り上がる事ができます。職員、入居者ともに明るく、毎日賑やかに暮らしています。地域のイベントなどにも積極的に参加しており、地元の方々との交流を深めたいと考えています。近隣の商業施設や公園へのお出かけ、季節ごとの外出行事も積極的に行っています。ご家族の面会も多く、積極的にコミュニケーションを図り、信頼関係を築けるように努めています。安心してその人らしく暮らしてもらえるように利用者、ご家族と共に話し合いながら、QOLの維持、向上に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームとしては、2001年に開設以来の経験を持ち、利用者・職員共に定着率が安定している。面会者も多く、季節行事や外出行事に参加し協力するなど、家族との関係性も良く保たれている。重度化対応や年に1~2例の看取り介護は、在宅診療医とその看護師の協力の下に、実績を積んでいる。法人の介護者能力開発ガイドラインに沿った、職級別コースでの自己評価→目標→評価→反省の過程を、半年ごとに繰り返す中で、職員は自己啓発に努めている。認知症ケアについて、所内での独自の勉強会を重ねて個々人のケア力の向上を図り、ホーム理念の実践に向けて努力したいとする管理者と職員の姿がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念と目標を玄関と談話室に掲示しています。理念を踏まえ、年度の前半と後半は各自目標をたて、実践につなげるようにしています。また名札の裏には法人の理念カードを入れ、常に確認できるようにしています。	「介護を必要とする一人ひとりに合わせ、心身の自立に向けたサービスを提供」「地域・家族との関わりを大切にしながら、認知症状の緩和や悪化の防止に努める」「自己啓発に努め、利用者と職員の自己実現を目指す」を理念に掲げ、9項目の具体的な行動目標を基に、日々の実践に繋げるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園やスーパーなどに利用者を出掛けの際には、地域の方々に挨拶をしたり、話しかけたりするようにしています。民生委員様からの情報提供により、地域のお祭りや行事などにも参加させていただき交流を図っています。	自治会には加入していないが、運営推進会議に参加の会長・副会長・民生委員からの情報で、区民体育祭・小学校でのふれあい交流などに参加している。隣接の老人保健施設(老健)でのボランティアによる催しに参加する機会もある。地域の古紙回収に協力し、顔なじみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に一度、運営推進会議を開催しており、参加者から寄せられる認知症に関する相談に対して助言を行なっています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や活動報告、ヒヤリハットや事故報告を行い、参加者からはご意見もいただき、サービスの向上に努めています。地域行事の情報もお知らせいただいております。楽しく参加させていただいています。	開催期・会議内容も順当である。参加者は、自治会の正・副会長・民生員、家族1名、包括センター職員、同系列の2グループホームから各1名となっている。前回調査で課題とした、家族参加の増員は難しいが、利用者の参加については状況を見極めながら検討を進めたいとしている。	会議録は玄関横に開示されている。ホームでの日々の暮らしについて理解を深め、会議に参加する意義を見出して貰うためにも、会議議事録の各家族への配布を望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市から案内のある会議や研修などには可能な限り参加しています。	通常の報告・連絡については支障なく関係性は保たれている。多職種交流会議や災害対策会議等へ参加し、各種研修会の情報も入手して参加の機会を増やしたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内での内部研修の年間計画に組み込まれており、また身体拘束委員会を毎月1回の詰所会議と同時開催し、拘束にあたる行為がないか話し合っています。日中は玄関や事業所内のエレベーターは施錠せず、見守りに注意しています。	身体拘束についての指針の下、併設の老健と合同でリスク委員会(拘束を含む)に担当者が参加し、月1回のホーム会議で、現状で相当する事例が無いかなど、拘束行為について具体的な話し合いを行っている。1階に4室、2階に5室でエレベーターで自由に行き来できる。道路に面した玄関は、内部から外へは施錠している。2階の5室にはドアセンサーを設置し、転倒リスクや体調等に応じて作動させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内の内部研修の年間計画に組み込まれており、理解を深めて防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	該当者がいないこともあり、これまで機会がありませんでしたが、今後は学ぶ機会を設けたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際には十分な時間をとり、文書に沿って説明を行い、質問にも丁寧に答えるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情相談受付担当者を掲示し、ご意見箱も設置しています。普段よりご家族の面会が多く、積極的にコミュニケーションを図り、ご意見やご要望をお聞きするよう努めています。	家族の面会は少なくとも月1回。毎週の訪問など多くあり、その機会に状況報告や説明を丁寧に行い、要望や意見も細事にわたって聞き取るよう努めている。家族は行事への参加や協力にも積極的で、参考になる意見を聞く良い機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月詰所会議を行い、職員の意見や提案を聞いています。会議前にはアンケート用紙を配り、積極的に全員の意見を集めています。また、年に2回、個別面談が実施されます。	勤務表作成で出勤者の多い日を選び、月1回の詰所会議で意見聴取を図っている。欠席者も含めて、利用者個々人に関する情報を、アンケート形式で収集し、カンファレンスに併用すると共に、業務改善に繋いでいる。費用も含めての行事計画書を、本部へ事前に提出する必要上、かなり綿密な意見交換が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、成績評価フィードバックシートを用いて評価を行なっています。同時に面談を行ない、個別に意見を聞き取っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で職員の段階に応じた研修が設けられています。また、事業所内でも毎月内部研修が行われています。職員には外部研修などの情報提供があり、希望する研修に参加できるように取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や市の会議に出席することで、他の事業所と情報交換をしています。法人内の3つのグループホームで毎月会議を実施しており、情報交換と交流を図っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず見学に来ていただき、ご家族の不安やご要望をお聞きしています。ご本人様とも面談して情報収集を行い、入居前に職員への周知を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望等の想いを気兼ねなくお話ししていただけるよう十分な時間をとり、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学の際にご本人とご家族の話をじっくりとお聞きし、必要に応じては他の施設サービスなどについても説明させていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で食事の準備・後片付け、洗濯物を畳む、季節の壁飾りの作成などを一緒に行い、共に生活しているという関係作りに努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から何でも話しやすい雰囲気づくりを心がけています。面会時には施設での生活状況や課題などを報告・相談し、信頼関係を築けるように努めています。また、行事にご家族を招待し、関係が途切れないようにしています。ご家族の生活状況の変化についても収集するようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで通っていた美容院にご家族の協力のもと定期的に利用されたり、年末年始やお盆にご自宅に帰られる利用者も多く、馴染みの関係が途切れないよう、できるだけ継続できるように支援に努めています。	職員に近在者が多く、利用者と馴染の場所や行事を話題にして共有し合っている。正月やお盆に日帰りで帰宅する人、家族の協力で美容院や墓参に行く人など、夫々の馴染関係が続いている。老健からの入居者は、老健での行事参加をして馴染をつないでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察し、孤立しないように必要時に職員がさりげなく声をかけ橋渡し役に努めています。利用者皆で一緒に楽しめるレクリエーションや創作活動などを提供し、個々の性格や相性、聞き違いなどからトラブルが起きないように見守っています。席替えや外出時のメンバー構成などにも配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りによるサービス利用終了がほとんどであり、特にこちらから連絡をとる機会はありませんが、これまでの関係性からご近所でお見かけした際にはお声をかけさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の希望や意向をくみ取り、職員は介護記録などで情報を共有し、ケアに活かせるようにしています。	おやつの後や、夕方のひと時におしゃべりタイムを持ち、いろいろな会話の中での気づきを記録し、詰所会議等で共有、検討している。やりたい・やりたくない・できる・できないなどを、一人ひとりに向き合いながら見出し、積み重ねてケアに活かせるよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴などをご家族から聞きとったり、シートの記入をお願いしています。その他、日々の関わりの中でご本人のご意向の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の発言や行動など、些細な変化に気を留め、職員間で情報共有できるように個人の介護記録に記載しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように、ご本人とご家族の意向を十分に確認したうえで、職員で検討し、介護計画を作成しています。遂行状況、効果などを評価するとともに、状況や状態の変化、ご要望に応じて見直しを行なっています。	利用者個々人について、担当者が半年に1回、介護計画について遂行状況・効果などを評価したものや介護記録等を基に、年に1回のサービス担当者会議で検討し、継続、見直しを図っている。家族には来訪時に意見聴取と、説明を行い承諾を得ている。必要に応じて、医療関係者の所見を用いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの介護計画を把握し、プランに沿った介護記録を残すようにしています。記録の内容に基づいて適宜介護計画の見直しを行なっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、利用者やご家族の要望に応えられるよう臨機応変な対応を心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーでの買い物を楽しんだり、隣のファミリーレストランによく出掛けています。地域のお祭りや校区の行事にも参加させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医を利用している利用者が4名、ほか5名は地域のかかりつけ医をご家族の付き添いのもと受診されています。症状の説明が必要な場合にはかかりつけ医宛にお手紙を用意させていただいたり、同行させていただくことがあります。急な病状やご家族で対応できない場合には職員が可能な限り対応させていただいています。	協力医療機関の在宅診療部の医師による訪問診療受診者4名、他はそれぞれのかかりつけ医で受診しており、投薬について家族の報告がある。精神科受診には、状態・状況について情報を提供している。他の専科は家族同伴を基本とするが、臨機応変に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に異常があれば、速やかに併設する老健の看護師もしくは在宅医療部へ報告し、指示を仰いでいます。体調の変化については定期的に往診医(月2回)や、ご家族へ報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者のお見舞いを兼ねて直接情報収集に病院を訪れるとともに、ご家族とも随時連絡を取りながら退院のスムーズな受け入れが出来るように努めています。入院時には看護サマリーを作成し、病院と連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に当苑でできる対応についてはご説明させていただき、終末期の看取りや延命治療の意思確認を行なっています。実際に重度化した場合には、在宅医療を利用しながら往診医、往診看護師と共に支援していきます。	入居時に重度化や終末期対応について説明して、看取り介護についての同意書(終焉の場所の選択・延命治療の確認等)を得ている。実際に当たっては、在宅診療医との同意書で対応を確認し、医師と看護師の協力の下に対応している。年に1~2例の看取り経験を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を作成しています。事業所内の内部研修にて緊急時の対応についても学ぶ機会があり、技術の取得に励んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設する老健と合同で年2回の防災訓練を実施しています。	規定の訓練は、併設(割り廊下で繋がる)の老健と合同で行われている。各種災害の対応策も用意しているが、当事業所の特性、1階4名・2階5名で、車椅子使用者がいる状況での対応に考慮されたい。	予期せぬ気候変動による災害や、避難時のコロナ感染についてなど、当所の特性を踏まえた対策についての再検討と、利用者状態に応じた備蓄品の精査を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所内の内部研修や、毎月の詰所会議で議題にあげるなどして職員の意識の向上を図っています。また、一人ひとりの人格を尊重し、何事も無理強いほしくないよう、その人らしく暮らせるように配慮しています。	併設の老健と合同で接遇研修を実施し、参加できなかった職員は資料を閲覧している。利用者への言掛けには声の大小に注意し、柔らかなトーンで誘導し無理強いほしくないようにしている。時には強い口調の職員もいるが、管理者が都度注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを密にとり、利用者の言葉に耳を傾けるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夜間眠くなければ食堂で一緒に過ごしたり、逆に眠気の強い日はいつもよりゆっくり休んでいただいたり、レクリエーションや軽作業に参加したくない日は居室で自由に過ごしていただき参加を無理強いほしくないなど、できるだけお一人おひとりのペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を伸ばしたい利用者の意見は尊重し、ゴムで結ったり、カチューシャを用意したりしています。事業所に来る訪問美容室では毛染めはやっていないため、希望される利用者には職員が行なっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや、後片付け(皿洗い、食器拭き、台拭き)を職員と一緒に手伝ってもらっています。外食やおやつレクの実施、普段の食事は事業所で用意されますが、行事などの際には食事を3食とも苑内で作ることもあり、献立は利用者の希望を聞いて決めています。	隣接する老健の厨房で作られるものを、3食共に職員が運び込み、利用者は盛り付けや後片付け等に参加している。入浴のない日に、月に1・2回はグループホームで調理日を設け、昼食または夕食を利用者と一緒に作っている。献立予定表からカレーや豚の生姜焼き等、簡単な献立の日を選び、材料は厨房から運んでいる。クリスマスには、家族も交えての食事会(昼食)を催して喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の利用者の状況を確認しながら、摂取量が適切に確保されるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必要に応じて支援しながら口腔ケアを実施しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から個々の排泄パターンを把握し、適宜トイレ誘導などの排泄ケアを実施しています。	チェック表の下にトイレ誘導を心掛けている。常時布パンツの利用者は2名で、ほとんどの人がリハビリパンツ+パッドだが、老健からの入居者でリハビリパンツから布パンツ+パッドへと改善された例が1名ある。夜間はポータブルトイレを利用する人も居る。昼間に2人介助の1名は、吸収量の多い厚手パッドで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量にも注意をしながら、日中はできるだけ体を動かすように体操などを毎日行なっています。必要に応じて散歩なども取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に3回設定しています。午前と午後に分けており、午前中嫌がられた方には午後から再度お声掛けしています。週に2回は入浴してもらおうよう声掛けを工夫し、無理強いをしないようにしています。	週に3回の入浴日に、午前6名、午後3名とほぼ全員が入浴している。浴槽が広く利用者は気の合った人同士2名が、浸かる・洗うと交互に行い、職員2名が対応している。できるだけ急かせず、ゆったりとした雰囲気の中でお風呂を楽しんでもらっている。その日の気分や体調により拒否の人には、個々にそった支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後すぐには眠くならなかったり、一人が寂しいと仰る方には職員と一緒に食堂でテレビを見るなどして眠くなるまで過ごしていただいています。日中もそれぞれの体力に応じて臥床時間を設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更があればその都度申し送り、一定期間は普段以上に状態観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段のレクリエーションでは満足できない利用者に対してはできるだけ外食やショッピングなどの外出の機会を提供するようにしています。また、食事の後片付けなどによりがいを感ずる利用者に対して感謝の言葉を忘れないようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩では満足できない利用者に対して外食やショッピング、遠足などできるだけ外出行事を多く取り入れるように努めています。天気の良い日には交代でできるだけ散歩に出掛けるようにしています。	個々人の希望や、状態に応じて近くのスーパーやホームセンター、公園、ファミリーレストランに行くなど、日常的に散歩を兼ねて外出している。車での遠出には外出企画担当が季節に合わせて企画し、家族と共に楽しんで喜ばれる行事にもなっている。数人は家族との頻回な外食を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に出掛けた際には支払い時にご本人に財布を持ってもらうように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご希望があれば掛けてもらうことができます。職員が必要と判断すれば事前にご家族に確認をとっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調に関しては職員本位にならないように注意しています。毎月、季節の壁面を利用者と一緒に作ったり、季節によってはお雛様やクリスマスツリーを飾っています。食堂のテーブルにはできるだけ生花を飾るようにしています。	居室は1階・2階に分かれているが、1階にリビング兼食堂があり、丸形と方形のテーブルが配置されている。壁には職員と共に手作りした季節の花が飾られ、四季を感じられるよう配慮している。ホーム内は下足可だが、共用空間は全て清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂には利用者が自由に見ることのできる雑誌や写真集などを置いています。利用者同士の関係性を把握し、トラブルにならないように見守っています。必要に応じて食堂の席替えを行なっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談し、入居の際にはなるべくなじみの家具や雑貨、趣味に関するものなどをお持ちいただくようにしています。	居室は比較的広くベッド、エアコン、洗面台、クローゼットが備え付けられている。利用者は馴染みの調度品やテレビを持ち込み、家族の写真・レクでの作品を飾るなど、夫々に居心地良く過ごす様子が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分の居室がわかるように表札を大きくしたり、トイレがわかりやすいようにドアに貼り紙をしています。エレベーターの前や中にもボタン操作がわかりやすいように説明書きを貼っています。また、居室で過ごすことが多い利用者には食事の時間やレクリエーションの時間などが一目でわかるように居室に日課表を掲示しています。		